

平成28年度北上市議会広聴広報委員会

県外行政視察報告書

1 視察期間

平成29年2月1日（水）～2日（木）

2 視察先及び視察事項

- (1) 神奈川県相模原市 議会の広報活動について
- (2) 神奈川県藤沢市 カフェトークふじさわについて
- (3) 埼玉県所沢市 議会の広聴広報活動について

3 視察の概要及び委員の所感

(1) 神奈川県 相模原市 **議会の広報活動について**

ア 市の概要

- ・ 神奈川県北部に位置する、人口約72万人の政令指定都市。
- ・ 市議会議員定数は46名。平成26年から通年議会を導入。
- ・ 市域面積は約328km²で、北上市の75%程度。

イ 市議会ホームページのリニューアルについて

(ア) リニューアルまでの経過

【平成24年度】

- ・ 11月に「議会改革等に関する検討会（議会運営委員会の諮問機関として、各会派から概ね1名を選出）」から議会運営委員会に対し、議会改革に関する事項の1つとして、ホームページの充実について報告があり、議会運営委員会はこれを了承。
- ・ 市議会のホームページについて、単独のドメインを取得し、市のホームページから独立した管理運営を行うための予算調整を開始。63万9,000円を平成25年度予算とした。

【平成25年度】

- ・ 他市の事例調査、担当課との調整、既存ホームページのページビュー数調査を経て、6月に事務局からスケジュール案を提示。

- ・7月にはコンテンツ人気分析やドメインの事例を検討した上で、ホームページのレイアウト案を作成した。コンテンツの人気分析は、ページビュー数調査を元に、よく見られているコンテンツは大きめのバナーとするなど、レイアウト作成の参考とした。
- ・9月に市議会新ホームページ構築及び管理運営業務委託の受託業者選定。一者随意契約とした理由は、インターネット中継と会議録検索を実施しており、それらのシステムとの一体的なホームページの構築が情報公開推進のためには不可欠であり、当該システムの構築を行った業者と契約することとしたもの。10月に57万150円で契約。内訳は、環境構築費15万7,500円、ドメイン2件の取得費2万9,400円、SSL証明書の年間利用料6万8,250円、データ移行費用(40ページ分)15万7,500円、研修費用6万3,000円、年間保守管理費9万4,500円。
- ・10月に議会運営委員の中でホームページに詳しい議員4名を検討委員として選出し、レイアウトの細部まで検討。最終的なレイアウトの決定は議会運営委員会で行った。
- ・11月にデータの移行を行い、12月から1月までレイアウト調整、並行稼働、担当課との最終調整を進め、議会運営委員会が公開を承認し、平成26年1月14日に新ホームページを公開した。

(イ)リニューアルの目的

- ・市議会ホームページを市のホームページから独立させた目的は、次の課題を解決するため。
 - ①二元代表制の一翼を担っている議会の独自性を反映できておらず、市のホームページの一部になっていることに対する意見が出されていた。
 - ②議会とホームページ閲覧者との双方向性を実現する方法がない点についても議会改革の検討の中で意見があった。
 - ③市のホームページは、市長部局の広聴広報課が一括して管理更新を行っており、深夜1時に一斉に更新される仕組みであったため、すぐに掲載したい内容であっても公開することができず即時性に欠けていた。
 - ④市のホームページは画一的なシステムであり、議会からレイアウトの変更やコンテンツの作成を希望する声が出ても対応できなかった。
 - ⑤膨大なページ数を有する市のホームページのサーバー容量は不足傾向にあり、議会で多くの容量を使用することは難しい状況であった。

(ウ)使用したシステム及び費用

- ・議会ホームページ用CMS（ホームページを作成できるシステム）である「DiscussWeb（NTTアドバンステクノロジー株）」を使用。
- ・制作や編集は議会局3課（議会総務課・議事課・政策調査課）のホームペー

ジ担当者が行っている。

- ・イニシャルコストは 57 万 150 円で、平成 28 年度のランニングコストは、管理運営業務委託費 49 万 5,288 円。

(エ)リニューアル後のホームページの特徴

【トップページ】

- ・上部の画像部分は、新しい情報を発信しているとアピールするため、定期的に更新している。画像は 5 秒ごとに切り替わり、現在は観光写真コンテストの入賞作品を掲載している。その他、議場の写真やフェイスブックのお知らせも載せている。
- ・左下には「本日举行される会議」を自動表示するエリアを設けている。
- ・コンテンツを整理し、次の 6 つのカテゴリに分けている。
 - ①議員の紹介 ②議会のあらまし ③傍聴・請願と陳情
 - ④広報・情報公開 ⑤議会の取り組み ⑥議会事務局から
- ・市議会だよりの表紙画像は、発行ごとに更新できるようになっている。
- ・最下部はカレンダーになっており、議会日程を表示している。

【議員紹介のページ】

- ・議員の個人名簿のページには、氏名、選出区、議席番号、所属会派、役職・所属委員会、住所、電話番号、メールアドレスを掲載。また、当該議員の会議録や映像にリンクを貼りっており、「発言」をクリックすると、当該議員の発言のある会議録が表示され、「映像」をクリックすると、議会中継につながるようになっている。
- ・議員名簿の項目は固定しているが、議員によっては載せたくない項目もあるので、その場合は載せないようにしている。
- ・議員名簿から会議録及び映像へのリンクに関する更新や、改選後の議員紹介ページの更新は業者に委託している。

【その他の掲載内容】

- ・行政視察の申込様式を載せることで、事務負担を軽減している。
- ・アンケート機能もあり、平成 26 年の議会基本条例制定時には市民意見の募集に使用した。アンケート機能は、「D i s c u s s W e b」の標準機能となっている。

(オ)リニューアルの効果

- ・リニューアル前とのアクセス数の比較は下表のとおりであり、アクセス数が 2 倍以上となった。

(H26)	臨時会議開催月 (5月)	定例会議開催月 (6月)	議会休会月 (7月)
アクセス数	23,514	28,585	19,632
増加率 (リニューアル前との比較)	223%	272%	337%

(カ)スマートフォンへの対応

- ・ホームページのシステムは、レスポンス対応（アクセスした人の端末によって、自動的にレイアウトが切り替わる仕組み）に未対応であったが、議会中継がマルチデバイス対応（様々な種類の機器で利用できること）になったことから、ホームページも対応できるような改修を平成28年度に実施。改修費用は16万2,000円。



相模原市議会
ホームページの
トップページ

ウ 議会局フェイスブックについて

(ア) ホームページとフェイスブックの役割分担

- ・どちらかに偏ることなく、両者で補完し合いながら閲覧者の向上を図っている。

【ホームページ】

- ・市議会の公式情報を掲載し、大きな変更については、議会運営委員会の承認を必要とする。
- ・ホームページにはコンテンツの蓄積ができ、検索に強い。カスタマイズすることでオリジナル性を出せる。
- ・拡散しづらい等のデメリットがある。

【フェイスブック】

- ・議会局のアカウントにより作成しており、議会局長を管理者とし、議会局による運営を行う。
- ・ホームページの更新情報や議会関係情報を掲載。議長公務など、議会活動の可視化に努めている。
- ・ある程度のカジュアルさが求められるツールであり、口語体での投稿。フレンドリーで固くなり過ぎない言葉遣いが望ましい。
- ・ホームページへ誘導することで相乗効果を狙っている。
- ・ホームページの課題であった双方向コミュニケーションを実現する方法としてフェイスブックを運営している。
- ・フェイスブックを用いた意見公募は目的としていない。

(イ) フェイスブックの現状

- ・ファンの数は、平成 28 年 2 月現在で約 360 となっている。平成 26 年 3 月末で 187、平成 27 年 3 月末で 272 であり、1 年間で 85～90 程度増加している。平成 28 年度は前年度より早いペースで増加している。
- ・投稿数は、平成 26 年度が 79 件、平成 27 年度が 313 件であった。ある議員からは、平成 27 年度は投稿が多過ぎて議長の行動日誌のような印象になっているが、それでいいのか検証する必要があるのではないかとの意見も出された。平成 27 年度には 3 日に 1 回の頻度で議長公務の投稿を行っていたが、どのようなものを投稿するのか課題はある。
- ・リーチ（投稿を見た人の数）は、平成 26 年度の 14,518 から、平成 27 年度は大幅に増加し、111,806 に達した。投稿 1 件あたりの平均リーチを比較しても、平成 26 年度の 184 に対し、平成 27 年度は 362 となっている。
- ・いいね！は平成 26 年度の 1,357 から平成 27 年度は 5,334 まで増加し、コメント数は平成 26 年度 26 件、平成 27 年度 48 件となっている。

	H26年度	H27年度
ファン数	187	272
投稿数	79	313
リーチ	14,518	111,806
いいね！	1,357	5,334
コメント	26	48
平均リーチ	184	362
平均いいね！	20	18
平均エンゲージメント率 (コメント、いいね!、シェアの合計の割合)	14	8

- ・ファンの居住地は相模原市が 49%、市外は 51%となっている。市外では、近隣の町田市、横浜市、愛川町が多い。
- ・性別では、男性 76%、女性 24%。年代別では、30 代後半から 40 代前半が最も多く 33%。40 代後半から 50 代前半が 31%、20 代後半から 30 代前半が 14%と続いている

(ウ)フェイスブックに関する議会局の体制

- ・議員は関わっておらず、議会局で管理している。
- ・フェイスブックの運用方針を定め、市議会ホームページやフェイスブックの基本情報欄に掲載している。
- ・議会局 3 課が事務分掌に合わせたテーマで投稿しており、平成 27 年 10 月には議会局フェイスブックマニュアルを作成した。マニュアルでは、目的などの全体概要、投稿テーマなどの運用体制、投稿テーマの決定方法などの運用概要、インサイトの管理などの効果測定、投稿の際のポリシーなどのコミュニケーションルールを定めている。
- ・議会開催のない月に年 4 回、フェイスブック担当者会議を開いて、連携してアイデアを出し合っており、前年度からファンの 15%アップを目指している。
- ・ファンの多い長崎市議会に問い合わせたところ、毎日投稿することでファンを増やしてきたとの回答であり、担当者会議の中で投稿テーマの拡充について試行錯誤している。

(エ)コメントへの回答

- ・コメントへの回答は、投稿した担当課が行うことにしている。
- ・コメント内訳について分析はしていないが、感覚としては、お礼 5 割、感想 2 割、指摘 1 割、要望・応援・問い合わせなど合わせて 2 割程度。ある政

策に対する反対のコメントがあった場合は、賛否を事務局として表すべきではないことから回答はしていない。

(オ)リーチが伸びた（よく見られた）記事

【議会・市政関連】

- ・市議会紹介漫画制作
- ・市議会紹介ポスターデザイン制作
- ・市議会だより発行
- ・視察対応
- ・議長公務
- ・相模原市とトロント市との友好都市提携25周年記念事業
- ・代表質問、一般質問、委員会の案内

【ニュースと関連したキーワード】

- ・「児童相談所に保護を求めている男子中学生が自殺をした問題への対応について」の申し入れ
- ・青根小学校全焼への対応
- ・熊本地震への対応
- ・県立津久井やまゆり園での献花
- ・青山学院大学箱根駅伝優勝関連



相模原市議会
議会局の
フェイスブック

エ 議会中継について

(ア)本会議の中継

- ・平成 17 年 6 月定例会から開始。
- ・イニシャルコストは、放送システム設置等委託費 263 万 9,000 円。
- ・議場に設置しているカメラは 4 台。インターネット中継を始める前から庁内向けに映像を撮影していたため、マイクやカメラは既存のものを利用した。

- ・ランニングコスト（平成 28 年度予算）は次のとおり。

視聴覚・音響設備保守点検委託費	196 万 6,000 円
映像配信システム使用料（A S P 使用料）	90 万 8,000 円
放映データ調整委託費（映像の編集・加工）	177 万 8,000 円
放映システム機器賃借料	21 万 7,000 円
計 486 万 9,000 円	

(イ)委員会の中継

- ・平成 24 年 3 月定例会から開始。
- ・委員会室 2 部屋に各 3 台のカメラを設置。
- ・イニシャルコストは、設計委託及び委員会室修繕費 324 万 9,6000 円。
- ・ランニングコスト（平成 28 年度予算）は次のとおり。

視聴覚・音響設備保守点検委託費	199 万 3000 円
映像配信システム使用料	48 万円
放映データ調整委託費	104 万 4,000 円
放映システム機器賃借料	33 万 6,000 円
計 385 万 3,000 円	

(ウ)映像付き会議録検索システム

- ・平成 17 年に議会中継を開始したことに伴い、映像配信システムと会議録検索システムを一体化させ、利用者に対してより検索性・利便性の高いサービスを提供することを目的に導入。
- ・アクセス件数は下表の通り。

年度	23	24	25	26	27	28(～12月末)
件数	1,388	1,234	1,259	1,160	2,261	905

- ・映像付き会議録検索システムの映像は、ウィンドウズメディアプレーヤーでの配信だが、サポート終了を控えており、今後の課題となっている。また、通常の議会中継とは別の形式で映像を載せているため、費用対効果は高くないシステムとなっている。

オ 美術大学と連携について

(ア)市議会紹介漫画「相模ひばり議員の活動～新しい公園を作るぞ～」

- ・選挙権年齢の引き下げに伴って選挙権を得る 18～19 歳をはじめとする若年層を中心に、わかりやすくすぐに読める市議会紹介漫画を公開した。
- ・市で包括連携協定を締結している女子美術大学と連携し、議会への関心が低い世代に対し、同世代が漫画を作成することで興味を持ってもらうことを目的とした。

- ・事務局で提案し、議会運営委員会です承した。
- ・公園ができるまでを例に、市議会の話し合いの仕方を紹介したストーリーの内容は、素案を事務局で作成し、学生がアレンジを加えた。
- ・ホームページで公開後、9カ月間で2,240件のアクセスがあった。
- ・漫画6ページの制作費用は59,400円。



市議会紹介漫画

(イ)市議会紹介ポスターデザイン

- ・平成27年度に制作した市議会紹介漫画に引き続き、若年層を中心幅広い世代をターゲットとした広報を行うため、ポスターデザインを制作。
- ・女子美術大学と連携して制作し、平成28年12月定例会議から使用。市議会だよりやホームページに掲載したもので、印刷しての掲示は行っていない。
- ・今後も毎定例会議ごとにポスターデザインを変更していく予定。
- ・議会運営委員会では、公募してはどうかとの意見もあり、今後の検討課題となっている。
- ・ホームページで公開後、2カ月間で149件のアクセスがあった。
- ・ポスター1デザインの制作費用は54,000円。



市議会紹介
ポスターデザイン

カ 市議会だより・市議会のしおりについて

(ア)市議会だより

- ・タブロイド判で21万6,000部発行し、主には新聞折込で配布。新聞購読者数が減少傾向にあり、それに合わせて発行部数も減少している。新聞折込の他には公共施設での配布、2,000名程の希望者にはポスティングを行っている。
- ・1部（8ページ）あたり5.832円
- ・議会運営委員会の下部組織として広報部会があり、一般質問・代表質問の見出し作成と掲載する写真の選定を担当している。見出し以外の記事は事務局が作成している。

(イ)市議会のしおり

- ・小中学生の市議会への関心を高めるため、市議会の役割やしくみをわかりやすく解説したパンフレット。対象読者の年齢や内容理解度などを意識し、デザインや伝え方を考慮している。
- ・市立の全小中学校に配付しているほか、市役所、図書館、博物館に設置。また、ホームページでも公開している。

キ 所感

- ・D i s c u s s W e bを利用したホームページはコンテンツが整理されて大変見やすく、当市議会でも導入したいシステムであった。リニューアルによってアクセス数が2倍以上となるなど、効果も高いものであった。
- ・ホームページのデザインについて、当市であれば北上コンピュータ・アカデミーに協力を依頼する方法もあるのではないかと感じた。学生が関わることにより、議会への関心も高まるのではないか。
- ・議員紹介のページから会議録の当該議員の発言にリンクが張られており、使い勝手の良いページになっていると思われた。
- ・議会中継のランニングコストは安価に感じた。いつでも議会中継を見ることが出来る環境づくりを進めていく必要があるのではないか。
- ・フェイスブックのリーチ数は増えているとのことであり、関心を持ってもらう方法の1つとしては有効と思われた。
- ・フェイスブックを活用することで、ファンの年齢層や居住地、性別等の現状分析ができており、対象に合わせた情報発信を可能にしていると感じた。
- ・女子美術大学との連携により漫画やポスターを制作したことは、若年層への訴求効果が期待できる。漫画やポスターにこだわらず、関心を持ってもらえる方法の研究は必要だと感じた。
- ・議会局職員が担当している部分が大きく、当市議会ではもっと議員が関わる仕組みづくりが必要だと思われた。

(2) 神奈川県 藤沢市

カフェトークふじさわについて

ア 市の概要

- ・神奈川県相模湾岸に位置し、人口は42万7千人で県内4位。
- ・「湘南」の中心都市で、全国的に有名な江ノ島がある。
- ・市域面積は約70㎢で、北上市の16%程度。

イ 議会報告会について

(ア) 議会基本条例の規定

- ・平成25年4月に議会基本条例を改正し、「広報広聴機能の充実」に係る条項を追加。これに基づき、広報広聴委員会を設置し、平成25・26年に議会報告会・意見交換会を開催。

藤沢市議会基本条例

(広報広聴機能の充実)

第9条 議会は、市民に対し議会活動に関する情報を積極的に公表し、議会に対する市民の意思の把握及び意見を交換する場として議会報告会を開催するものとする。

2 議会は、広報広聴機能の充実を図るため、議員で構成する広報広聴委員会を設置する。

(イ) 開催状況と課題

- ・平成25年度は13会場、平成26年度は2会場で開催。平成26年度は、平成25年度実施時に一会場当たりの参加人数が少なかったことを理由に、会場数を大幅に集約した。
- ・参加者の年齢層の偏りや発言者の集中等、次のような課題が生じた。

【課題】

- ◆参加者の年齢層が偏り、若者の参加が少なかった。
- ◆参加者が固定化してしまい、人数が減少傾向となった。
- ◆特定の参加者に発言が集中するなど、進行に課題があった。
- ◆市民と議会との間で、対立的なムードが生まれてしまった。
- ◆市政全般に対する苦情が多く、建設的な議論になりにくかった。
- ◆テーマ設定や報告の進め方に課題があった。
- ◆アンケート結果から、参加者の満足度が低かった。(満足度50%未満)

ウ カフェトークふじさわについて

(ア) 議会報告会の課題への対応

- ・課題解決のため、外部専門家の牧瀬稔氏（法政大学大学院 公共政策研究

科兼任講師)のアドバイスを受け、新たに「カフェトークふじさわ」と称した議会報告会・意見交換会を平成27、28年度に開催。

【改善点】

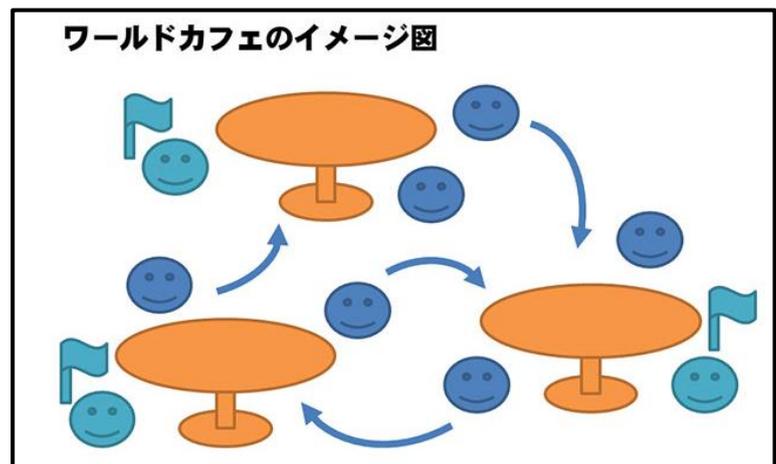
- ◆名称やチラシを工夫して、親しみやすいものにする。
→「議会報告会・意見交換会」から「カフェトークふじさわ」に名称を改め、ポスター(右)を作成・配布。
- ◆ワールドカフェ方式を採用し、共通のテーマに対し和やかな雰囲気で見聞交換を行う。



ワールドカフェ方式とは

議員を含む参加者をそれぞれ4～5人単位のテーブルに分け、各テーブルで共通テーマについての話し合いを行う。この際に、

1. 各テーブルを1つの国に見立てる。
2. 話し合いの途中、全体進行役の指示で各参加者は別の国へ移動する。
3. 移動先でも話し合いを行い、他国(移動先テーブル)と自国(移動元テーブル)で出た意見の違い等を確認する。
4. 自国に戻り、結果を話し合う。



図・説明引用元

<http://www.dh-giin.com/article/20160825/6546/print/> 議員 NAVI より (検索日 2017/2/10)

- ・藤沢市議会では、各テーブルに参加者とは別に進行役を配置。進行役は、牧瀬稔氏の教え子の学生が務めた。

(イ)実施状況

【第1回カフェトークふじさわ】

実施日：平成28年5月8日（日） 午前の部、午後の部の2回開催

キャッチコピー：議員と話そう カフェトークふじさわ

～みんなが主役 投票率アップ大作戦～

議論のテーマ：「投票率の向上」

参加者数：午前 47名

（議員19名、一般参加21名、講師・大学生ボランティア7名）

午後 52名

（議員24名、一般参加21名、講師・大学生ボランティア7名）

<カフェトークのながれ>

第1ラウンド（20分）

「なぜ投票に行かないのか」

第2ラウンド（20分）

「投票率が向上することによる
メリットや デメリット」

第3ラウンド（15分）

「自分と議員の関わりはどこか
または自分と市政との関わり」

第4ラウンド（20分）

「投票率を上げるには」

第5ラウンド（各班3分程度）

「まとめ・発表」



参加者と議員が同じテーブルで、お茶を飲みながら、大学生の進行により自由に話し合う雰囲気を演出。

<第1回実施にあたって工夫した点等>

- ・周知方法について、従前行っていた回覧板等での周知を改め、市のフェイスブック・報道機関への通知等、比較的若年層に伝わりやすいツールで周知することを心がけた。また、議員個人のPR活動（議員個人のSNS等でのPR）や、地元大学の学園祭でのビラ配布等、草の根的なPR活動も行った。
- ・共通のテーマへの話し合いを通じて、市民の考えを汲み取る目的から、議論しやすいテーマの設定を心がけた。第1回目は市内の大多数の人間が課題意識を持っている「投票率の向上」を取り上げた。（平成27 藤沢市議選の投票率は38.7%で、県内で最も低い状況にあった。）
- ・ポスターのデザインは広報広聴委員長である柳田議員がラフ案を印刷業者に提示。若者に親しみやすいデザインを心がけた。
- ・議員自らが会を運営・実施する目的から、極力、議会事務局職員の手を借りずに、会場準備等を行った。

- ・開催に係る諸経費については、15万円程度（年2回の開催費用として計上）の予算措置（議会費）により対応した。
- ・従前の議会報告会においては、対象年齢を特に定めていなかったが、カフェトークふじさわにおいては高校生の参加を意識して「高校生以上」と対象年齢をポスター等に明記した。これに加え、地元高校の「社会科研究クラブ」等の活動と会の開催がマッチングし、高校生・若年層の参加者を増やすことができた。

【第2回カフェトークふじさわ】

実施日：平成28年11月23日（日） 午前の部、午後の部の2回開催
 キャッチコピー：議員と話そう カフェトークふじさわ
 ～みんなが主役 投票率アップ大作戦～（前回と同じ）

議論のテーマ：「投票率の向上」

参加者数：午前 43名

（議員18名、一般参加17名、講師・大学生ボランティア8名）

午後 35名

（議員18名、一般参加9名、講師・大学生ボランティア8名）

<第2回実施にあたって工夫した点等>

- ・テーマに関しては第1回と同じものを採用したが、1回目よりも具体的な踏み込んだ結論を出すために、「投票率の向上のために『市議会ができること』は何か？」といった問いをワークショップの場に提示し、話し合いを行った。
- ・第1回目においては第1～第4ラウンドまでの4ラウンド制で議論を行ったが、これにより予定の時間をオーバーしそうになったため、第2回は3ラウンド制で行った。

(ウ)実施アンケート結果

- ・10～20歳代の参加割合、女性の参加割合がカフェトーク実施前に比して著しく増加した。

10～20歳代の参加割合：実施前の2%から21～25%に向上

女性の参加割合：実施前の23%から38～50%に向上

- ・「満足」と「やや満足」の回答割合が全体の9割以上を占めた。

（カフェトーク実施前は28%）

◆平成 26～28 年度藤沢市議会報告会及びカフェトークふじさわアンケート集計結果

	平成26年議会報告会 (旧方式議会報告会) ※		第1回カフェトーク ふじさわ (H28.5.8)		第2回カフェトーク ふじさわ (H28.11.23)	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
参加人数	56	-	29	-	24	-
内男性	43	77%	18	62%	12	50%
内女性	13	23%	11	38%	12	50%
あなたの年齢について						
10～20歳代	1	2%	6	21%	6	25%
30歳代	1	2%	2	7%	2	8%
40歳代	6	11%	5	17%	8	33%
50歳代	8	14%	6	21%	2	8%
60歳代	14	25%	4	14%	3	13%
70歳以上	26	46%	6	21%	3	13%
本日の開催内容はいかがでしたか？						
満足できる	6	11%	15	52%	11	46%
少し満足できる	10	18%	12	41%	11	46%
あまり満足できない	8	14%	1	3%	0	0%
満足できない	10	18%	1	3%	1	4%
未記入	22	39%	0	0%	1	4%
今後も参加したいですか？						
参加したい	45	80%	21	72%	20	83%
参加したくない	2	4%	0	0%	0	0%
わからない	5	9%	7	24%	3	13%
未記入	4	7%	1	3%	1	4%

女性参加
比率・若
年層参加
比率が向
上

満足・や
や満足の
割合も向
上

※平成 26 年度は 11 月に行った別日程 2 会場の合計

(エ) 成果・課題・反省等

- ・カフェのようなお洒落で落ち着いた空間での話し合いを意識して、カフェトークふじさわを開催したが、会場は普通の貸し会議室であり、狙っていたような雰囲気は出せなかったように思う。
- ・参加者の募集・会の PR 方法については、今後も模索していく必要がある。
- ・テーマ設定については、今回は意見が対立しやすいテーマ（例：「〇〇駅の建設について」「〇〇学校の廃止について」等）を避け、比較的誰もが共通の課題意識を持ちやすいテーマの設定を心がけた。ただ、今後より活発な議論を参加者から引き出していくには、意見が対立しやすいテーマの設定も選択肢に入れたうえで検討していく必要がある。
- ・新しい方式の議会報告会・意見交換会として開催されたカフェトークふじさわは、「市民との対話」を第一の目的とし、議会報告的な要素を従前よりも縮小して開催した。今後もこのようなやり方で議会報告会・意見交換会を行ってい

くかについては、継続して検討していく必要がある。

- ・カフェトークふじさわで出された意見をいかに政策立案につなげていくか、今後検討していく必要がある。
- ・各テーブルに配置した進行役の学生が、議員と参加市民の間のクッションの役割を担い、話し易い雰囲気を作った。

エ 所感

- ・北上市議会にて取り組んでいる、「市民と議会をつなぐ会」の改善点を多く学ぶことができた。「カフェトークふじさわ」という親しみやすいネーミングをはじめ、市議会単位・議員個人単位でのSNS等を介しての周知活動、ワールドカフェ方式を取り入れる新しい試み等、会を意義あるものにさせるための数々の工夫が印象的であった。
- ・従前の議会報告会・意見交換会の課題であった「参加年齢層の偏り」や「発言者の固定化」を解消するため、同会をワールドカフェ方式での市民と議会との対話の場に置き換える手法は画期的であると感じた。なかでも、「投票率の向上」という議論のテーマは、市民・議会の双方が前向きに議論しやすい、一体感を出せるテーマであり、とても良かったように思われた。
- ・カフェトークふじさわのポスター・ロゴのデザインについては、世間一般の議会に対する堅苦しいイメージを一蹴するような親しみやすいものであり、非常に参考になった。
- ・当市議会でも、藤沢市議会と同じく、ワークショップ形式での市民との意見交換会を行っているが、意見交換会実施後の活動も重要であると感じた。市民に議会を身近に感じてもらうには、意見交換会で市民が出した意見に対し、施策形成に活かすというやり方で議会が応えることが不可欠である。今後、このことを実現するための議会内での仕組みの整備が当市・藤沢市の共通の課題であると感じた。

(3) 埼玉県 所沢市

議会の広聴広報活動について

ア 市の概要

- ・埼玉県南西部にある人口約34万人の市。市議会議員定数は33名。
- ・市議会は早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査2015で全国16位。
- ・市域面積は約72km²で、北上市の16%程度。

イ 議会報告会について

(ア) 所沢市議会議会報告会実施要綱

- ・平成21年3月に施行した議会基本条例に、議会報告会を行う規定を設け、議会報告会実施要綱を定めた。平成22年5月に初開催。
- ・当初予算に係る議会報告を5月に、決算に係る議会報告を11月に実施。
- ・要綱では、原則年4回行うこととしており、議長を除く32名の議員を4班に分け、各班が2会場ずつ担当している。
- ・要綱は一度改正しており、開催時期を5月と11月に固定していた内容を削除した。これは、担当する広聴広報委員会において定例会ごとに議会報告会を実施してはどうかとの議論があり、全会一致に至らなかったため、毎定例会終了後に行うことにはならなかったが、可能性を残すために時期については削除したもの。

(イ) 議会報告会の構成

- ・2部構成としており、それぞれ1時間程度。
 - 第1部：議案についての説明とそれに対する質疑。議員個人の見解、賛否の理由は述べないことにしている。
 - 第2部：フリーテーマの意見交換。場合によっては議員個人の意見も述べられることにしている。
- ・議会報告会の進め方は、班にある程度任せており、席の配置を第1部は対面式で、第2部は小グループで行った班もあった。

(ウ) 周知方法

- ・市議会だより、市広報紙、ホームページ、SNSへの掲載・投稿。
- ・開催の1週間前には、ポケットティッシュにチラシを入れて駅前で配布している。当初はチラシだけを配っていたが、なかなか受け取ってもらえず100枚を配るのに1時間以上かかってしまう状況であったため、ポケットティッシュの中にチラシを入れて配るようにしたところ、1,000枚を30分程度で配布できるようになった。配布する際には、のぼり旗と横断幕によって目立つよう工夫している。
- ・議会報告会の開催日には、市の広報車に議員が乗り、1時間程度、会場周

辺で呼びかけている。

(エ)出された意見の整理

- ・平成22年の議会報告会の際には、出された意見書を整理していたが、その活用までは至っていなかった。
- ・平成23年5月に広聴広報委員会（11名・地方自治法第100条第12項の協議等の場）を組織してからは、議会報告会で出された意見を取りまとめた上で、各常任委員会に振り分けて対応を依頼し、回答をホームページに掲載している。
- ・定例会ごとに正副委員長連絡協議会を議長が招集し、情報を共有している。

(オ)課題

- ・参加者は減少傾向で、若年層が少ない。出される意見に世代の偏りがある。
- ・参加者が固定化し、初めて参加する市民には発言しづらい雰囲気となっている。

ウ みみ丸カフェについて

(ア)開催までの経過

- ・平成27年度に広聴広報委員会が久慈市議会を視察し、ワールドカフェ方式の意見交換会である「かだつて会議」について説明を受け、開催に向けて準備を進めた。
- ・平成28年2月、市内にキャンパスがある早稲田大学と所沢市議会とで連携協力に関するパートナーシップ協定を締結。ファシリテーターは早稲田大学の扇原教授に、テーブルホストは大学生に依頼した。
- ・議会報告会では若い世代の参加が少ないことから、「みみ丸カフェ」は世代限定で実施することとし、20代から50代の無作為抽出した市民800名に案内を送付。案内文書は柔らかな表現とし、「このまちのこと、まったくおはなししませんか？」と呼びかけたところ、36名から参加希望があり、20代から50代の各年齢層がほぼ均等にあった。
- ・高校生にも参加してもらいたいと考え、市内6校の県立高校を回り、議長と委員長で説明したが、学校単位で協力を得るのは難しかった。人脈を通じて依頼した高校生4名の参加は得られた。

(イ)みみ丸カフェの進行

- ・3つのラウンドに分けて進行し、第1・第2ラウンドでは「あなたが思う、所沢市の魅力や自慢できるものは何ですか？」をテーマに、第3ラウンドでは「所沢市にあるものを生かして、さらに魅力あるまちにしていくためにはどうしたらいいと思いますか？」をテーマとした。最後に個人意見のまとめ

として、「所沢市がさらに魅力あるまちとなるために、あなたができることは何ですか？」について付箋紙に記入し、貼り出した。

- ・ワールドカフェ形式で第1ラウンドと第2ラウンドで席替えを行うことにより、話し合いが深まることを期待。

(ウ)会場の雰囲気づくり

- ・気軽に話ができるように、テーブルクロスを敷き、広聴広報委員会の委員の2名は、茶娘の服装で給仕役を行った。(狭山茶は茶業協会からの提供)
- ・参加議員は共通のポロシャツを着用したほか、ファシリテーターの扇原教授の助言があり、各議員の抵抗感のない範囲でコスプレして参加した。

(エ)出された意見の整理及びアンケート結果

- ・「みみ丸カフェ」は、意見を政策提言につなげていく目的ではなく、若い世代の様々な考えや意見を聴く場として開催したもの。出された意見は議会内で共有した。
- ・アンケートの結果、53.5%が満足できる内容だったと回答しており、比較的好評と捉えている。また、議員は大変話しやすかったとの回答が多く、コスプレの効果だったと考えている。



さらに魅力あるまちになるためにできることが書かれた付箋紙

エ 市議会だよりについて

(ア)発行概要

- ・年4回の定例会ごとに発行し、3月と6月の定例会号は1ページ、9月と12月の定例会号は12ページ。各号12万9,400部を作成。
- ・主な配布方法は新聞折込で、全戸配布ではない。市の広報紙と発行のタイミングが合わないので一緒に全戸配布することが難しい。
- ・印刷に1,100万円程、新聞折込に460万円ほどの予算を充てている。
- ・表紙写真の撮影や記事作成を事務局で行うことが多い。一般質問は、登壇した議員が掲載項目を選択している。掲載は1人1項目としており、議員が2項目まで絞り、事務局でそのどちらかを記事にしている。

(イ)改善の経過

- ・平成26年から市議会だよりを改善するための勉強会を実施。課題抽出や先進事例の調査を行った。
- ・他市の市議会だよりを市民ギャラリーに掲示し、手に取りたいと思われる表紙についてアンケート調査を行ったところ、写真を全面に使用しているものが読んでもらいやすいとの結果だった。
- ・市民のインタビューの記事をシリーズで載せることとし、議場コンサート出演者や所沢出身のスポーツ選手（大相撲、フリースタイルスキー、車イスラグビー）と対談。表紙の写真にも使用している。



オ SNS（ツイッター・フェイスブック）について

(ア)活用状況

- ・ツイッターとフェイスブックのアカウントは、どちらも議会事務局で取得し、書き込みも事務局で対応している。
- ・ツイッターは、本会議や委員会の開催などの情報提供とフェイスブックへの誘導を目的としている。

- ・フェイスブックは、視察受入の様子、議会開催のお知らせ、議会だより発行のお知らせ、議会のイベント開催のお知らせやその報告などが中心。マスコットキャラクターである「みみ丸(*)」のつぶやきを掲載しており、柔らかな印象づくりを行っている。
- ・グーグルカレンダーを活用し、各議員が議会日程を確認しやすくしている。

＊広聴広報マスコットキャラクター「みみ丸」

- ・平成27年に、所沢市議会初開催から65周年を記念して、美術大学出身の議会事務局職員がデザインを考案。市の鳥であるヒバリの忍者で、頭には特産品の狭山茶の葉が描かれている。
- ・名称は全国から公募したところ、約220点の応募があった。みみ丸の名称は、市民の声を聴く「みみ」と、議員定数が33人であることから。



フェイスブックの
みみ丸のつぶやきは
語尾が「〇〇なのだ」
となっている。



所沢市議会
@tokoroshigikai

ホーム

ページ情報

写真

イベント

いいね!

投稿

ページを作成

いいね! シェア 編集を提案 ...



所沢市議会さんがアルバム「【ようこそ! 所沢市議会へ (2月2日)】」に写真4件を追加しました。

2月1日 23:29

本日午前10時から、岩手県北上市議会 広聴広報委員会の皆さまが視察にみえました。

視察内容は「議会の広聴広報の活動について」

議場見学の後、狹野副議長、西沢議員、植竹議員による説明、質疑応答が行われました。

みみ丸カフェ、政策討論会、議会だよりなど当市議会の取組について約2時間にわたり意見交換をさせていただきました。

本日は、遠路はるばる所沢市にお越しいただき、ありがとうございました。

★★★みみ丸のつぶやき★★★

なんと!! 北上市議会の広聴広報委員会は、15にんの大所帯なのだ。

部屋に収まりきるか不安だったけど、みみ丸がかんぺきなセッティングをしたから大丈夫だったのだ!

市内にしゅくはくもしてくれてありがとうなのだ。

みみ丸も、岩手にお泊まりして雪景色を見たいのだ!



所沢市議会の
フェイスブック
(当市議会の視察に
関する掲載内容)

カ 政策討論会について

(ア)開催の経過

- ・実施要綱を定め、第1回を平成24年2月に実施。議会運営委員会が主催し、第1回のテーマは「地域経済の活性化と所沢ブランドの創造」。
- ・当初の目的は、議員間の共有認識を醸成するためで、三重県議会の事例を参考にし、イベント的な内容であった。
- ・賛否が分かれるようなテーマで、討論番組のイメージで実施した方が市民の満足度は高いものになるのではないかとの意見もあったが、収集がつかなくなる危惧があったため、各議員の考えを言い合えるようなテーマとした。
- ・初回は事前の練習を4回実施して臨んだ。138名の市民が来場し、アンケートからも満足度の高い内容であった。
- ・広聴広報委員会が決めるのは日程と会場のみで、テーマや進行方法は各会派が選出した討論会参加議員が協議して決定していた。
- ・参加議員数は12名で開始したが、1名あたりの発言時間が短くなるため、2回目以降は人数を減らした。参加議員の発言は会派を代表するものではなく、議員個人の意見とした。
- ・平成24年2月から27年2月までの4回は議会全体で実施し、平成28年2月と平成29年1月は常任委員会単位で行った。

(イ)常任委員会単位での開催

- ・初回の政策討論会が好評であったことから継続することとなり、第4回までは同じように議会全体で実施した。
- ・市民からは、政策討論会の結果を生かすべきとの指摘が多くあり、開催要綱を平成26年に改正した。

所沢市議会政策討論会実施要綱

(意見の活用)

第5条 討論会において取りまとめられた結論及び意見等を次に掲げる

目的のために活用するものとする。

- (1) 委員会における審査又は政策立案
- (2) 執行機関への政策提言
- (3) 前2号に掲げるもののほか、議会における政策形成への反映

- ・政策討論会は、議会全体で行う規定を残しつつ、委員会においても実施することができることと規定した。
- ・平成28年2月の政策討論会は、市民文教常任委員会が「文化財保護」をテーマに実施。第1部は基調講演(55分)、第2部は委員によるパネルディスカッション(70分)。政策討論会后、市に提言も行い、民俗資料の保存環境改善につながった。

- ・ 常任委員会が行う政策討論会には、広聴広報委員会は関わっていない。
- ・ 周知方法は、市議会だより、市広報紙、ホームページのほか、簡易なポスターを公共施設に掲示している。

キ 政策研究審議会について

(ア) 設置の目的

- ・ 平成28年に所沢市議会政策研究審議会条例を施行。第1条に、『議会と大学等研究機関との連携を通じて議員研修の充実強化を図り、もって更なる議会機能の強化と議会の活性化に資するため』と規定している。

(イ) 市民からの施策提案

- ・ 市民からの提案も政策研究審議会に諮問できるように協議を進めている。市内在住、または通勤通学者を対象とした、「住みたい街所沢」の施策募集を計画している。提案理由を1,000文字程度にまとめて提出してもらい、それを広聴広報委員会で協議し、提言した方がよいものであれば正副委員長連絡協議会に報告し、議長名で審議会へ諮問する。

ク 所感

- ・ 所沢市議会の改革の根っこは、市民からの「議会や議員は何をしているのか分からない」という意見にあるとのことで、これはどの市議会でも同様だと思う。いかに積極的に情報を公開していくか、多様な手段や機会で発信していくかが大切だと感じた。
- ・ 意見交換会である「みみ丸カフェ」で、話しやすい雰囲気づくりのために議員がコスプレまでする徹底ぶりは、頭が下がった。参加者募集を20代から50代を対象に無作為抽出するという手法も参考になると思われた。
- ・ 市議会だよりは、表紙に関連する記事の掲載やレイアウトなど工夫されており読みやすく構成されていた。表紙に関するアンケート調査を実施し、その結果を反映させるなど、市民に見てもらえるための取り組みは参考になるものであった。
- ・ マスコットキャラクターの活用や、フェイスブックでの親しみを感じられる表現により、議会の堅苦しさを和らげていた。
- ・ 政策討論会は、当市議会においても常任委員会単位で取り組んでいる政策提言の過程において取り入れたい制度と思われた。当市議会でも市民の声を生かせるような政策提言を進めなければならないと感じた。
- ・ 市民との意見交換においては、前段に政策討論会を行って議員の意見を公開し、後段にはカフェ方式で市民の意見を出してもらおうという2部方式も有効だと感じた。

- ・市民が議会を身近に感じ、次の機会にも議会報告会・意見交換会に出てみよ
うと思うためには、自分の出した意見やアイデアが取り入れられたことを実
感できることが必要である。自分の住むまちが自分たちの手で変えていける
ことを示す“議会主催の意見交換会”になっていく工夫が重要と感じた。

4 視察参加委員

委員長	三宅靖
副委員長	八重樫善勝
副委員長	小原享子
委員	菊池勝
委員	高橋晃大
委員	熊谷浩紀
委員	小田島徳幸
委員	齊藤律雄
委員	藤本金樹
委員	武田勝
委員	安徳壽美子
委員	星敦子
委員	及川誠
委員	鈴木健二郎